

目の健康

緑内障を治療する理由

緑内障は、何年もかけて視野が欠けていき、いずれは失明してしまつ病気でです。しかし生きていく間に失明に至る人はごくわずかです。では、なぜ眼科医は人間ドックで必死に緑内障疑いの人を見つけて治療するのでしょうか。理由をいくつかあげます。

- ① 緑内障で欠けた視野は治らない(平成30年9月現在)
 - ② 視野がかなり欠けるまで気付かず、生活に不便を感じる時は末期である
 - ③ 末期になると転んでケガをしたり、視野が狭いことを他人に理解してもらえない
 - ④ 白内障と勘違いしやすい
- 視野検査をすると、正常人(図1)はマリオット盲点という視野が欠け

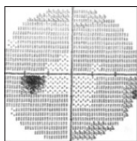


図1 正常

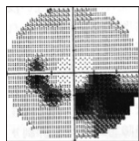


図2 少し進んだ緑内障

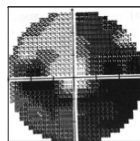


図3 緑内障末期

た部分(黒塗り部)がありますが、普段意識することはありません。見えないところは脳が想像で映像を作っているからです。少し進んだ緑内障(図2)で視野の3分の1が欠けても、歳のせいではやける、人によくぶつかるといった程度で自覚症状です。緑内障末期(図3)になると、まぶしいしほやけると感じて受診します。本人は「白内障かな」と思う程度で、視野欠損の自覚はないことが多いです。高齢で末期になると、段差が分からずつまずいて転ぶことがあるので注意が必要です。周りの人も気を付けてあげてください。

これから数回に分けて緑内障の治療の重要性についてお話しします。



宇井 理人 先生

プロフィール

北里大学北里研究所病院

宮久保眼科非常勤医師

<専門>緑内障、眼科一般